



Yasuaki Kagii
1971年兵庫県生まれ。大学在学中に水中撮影を始め、卒業後オーストラリア、伊豆、モルディブでダイビングガイドを務める傍ら、水中撮影に励む。1998年にモルディブより帰国後、フォトグラファーとして独立。著書に「海色えんびつ」など。年内に新たな写真集を出版予定。

「両手の中だけですべてのことが 完結できてしまいう操作感がええな」

—— 普段の水中撮影ではどんな機材を使っているんですか？

古見 普段は広角用のカメラとマクロ用のカメラを1台ずつ持って入ります。MDX-PRO 5D Mark IIハウジングはワイドで使っていて、レンズは15mmのフィッシュアイか、17〜40mmのズーム、もしくは100mmのマクロですね。

鍵井 俺も2台体制。で、このハウジングは思いっ切りワイドで使っていて、レンズは15mmか16〜35mm。マクロも本当はMark IIにしたいんですけど、

とりあえずはまあ。

—— MDX-PRO 5D Mark IIハウジングの印象は？

鍵井 最初に手に取ってみて感じたのは、やっぱりシャープになったってこと。手にしっくりくる。

古見 最初にバツと見て「あ、シャープだな」って感じますよね。余分なところが本当に極限までなくなってる。下部の削りだったり、裏側のところだったり。コンパクトになったぶんやっぱり軽いし、水中でのバランスがいいんですよ。カタログを見ると前の5D

のハウジングと100gしか変わってないんだけど、体感的にはすごく軽くなった気がする。

鍵井 うん。なんでやるな？

古見 全体的にバランスがよくなったってことなんですかね。あとね、見た目の部分では、色が渋いなくって思ったんですよ。水の中に持つていくと、なんていうか、えんじ色みたいに見えますよね？

鍵井 ……めん。俺、まったく気づいてなかった(笑)。

古見 えー(笑)。水の中に入ると色が違って見えますよ。渋いぜ、これ〜！みたいな思いますよ(笑)。

—— 水中での操作感はどうですか？

鍵井 正直に話してええかな。俺はズーッと岩にへばりついて生態写真を撮るタイプじゃなくて、わりとリズムに乗ってパンパンと撮っていくカメラマンやから、ハウジングの善し悪しっていうのは俺の感覚に合うか合わないかが重要やと思って。だから軽くなればもちろんうれいけど、重量はじつはそんなに重要じゃないのね。で、今回これを使ってみて感覚的に「面白い」と思ったのがじつは、操作感やねん。グリップした両手の間だけで、すべてのことを完結できてしまふ感じっていうか。

古見 それは確かに感じますね。僕は、水中で設定をすこくいじるんですよ。本当に絶え間なくココロ露出変えてたり(笑)。だから、操作性がよくなくてすこくうれい。僕はそんなに手が大きくないから余計に助かります。あと細かい部分だけど、前まではダイヤルがカメラの操作



魚影が濃く、不思議な生き物にあふれたコモドは被写体が豊富な、お気に入りの海の1つだ。ハナダイやペラの仲間が目の前で激しく乱舞するシチュエーションでも、しっかりと四隅が見えるので、構図などは非常に決めやすい。

MDX- PRO 5D Mark IIハウジング インプレッション

Kyu Furumi

1978年東京生まれ。和歌山県串本町でダイビングガイドとして活動していた頃より、水中撮影を始める。その後、写真家として独立。世界中の海をフィールドに撮影を続けている。現在、来年出版予定の海の生物たちのコミュニケーションをテーマにした写真集を制作中。



「コンパクトになったぶん軽くて、 水中でのバランスがいいんですよね」

鍵井 俺らは、このちっちゃなファインダーの中で判断せなあかんから、なるだけ見えたほうがええもんな。俺もクジラをちゃんと撮れたからなあ。一瞬の間にしつかりファインダーで確認できてん。近寄りすぎたと思っで、おっかないから少し離れたんやけど、笑、それだけ冷静に状況を確認できるくらいの視野率、視角を確保してたから。じつは5Dを使ってたときはマジでファインダー見ずに、ノーファインダーの操作で感覚的に撮ることが一番多かつてんだけど、それはもうやめようかな、と(笑)。

—— 今後、どんな使い方をしていきたいですか？

鍵井 SD Mark IIはHD動画も撮れるんで、僕は動画を撮ろうかなって思っていて。今まで見た海をもう一度違う目線でも撮り直してみたいな、と。ロケに行く楽しみが増えたな！

古見 僕はメインで使っているし、そうとう気に入ってるので無駄打ちをせず、大切に写真を撮りたいなって。自分これでもいいやつで感じます。よっぽど劇的なことがなければ。

鍵井 3年前くらいに5Dでもうええわって思ってたのに？(笑)

古見 うつ(笑)。じゃあととりあえず、3年はこれでもいいです(笑)。

鍵井靖章 × 古見きゆうじ



小笠原でここがれのマッコウクジラの撮影に成功した。十数秒の出会いの中、きっちりファンダー越しに彼を見据えていた。この写真を撮影した瞬間、胸ビレが切れていることに気がつき、後ろに少し泳いで、撮影を続けた。ファインダーでしっかりと細部が観察できたことに感謝する

フルサイズの2110万画素CMOSセンサー、フルHD動画撮影機能など、ミドルクラスのボディながらハイパフォーマンスを実現する

「Canon 5D Mark II」は、プロカメラマンの間でも定評のある眼デジカメラだ。

そのハイクオリティな機能を水中でも余すことなく使うための最高傑作

「MDX-PRO 5D Mark IIハウジング」が今夏、SEA&SEA社よりデビュー。

本誌グラビアの撮影もこなす2人のフォトグラファー、鍵井靖章氏、古見きゆうじ氏にそのインプレッションをさつくばらんに語ってもらった。

MDX- PRO 5D Mark IIハウジング

ダークオリブメタリックカラーに包まれて美しく輝くボディは、極限まで肉薄化を追求されたアグレッシブなデザイン。従来のMDXシリーズハウジング同様アルミ素材を採用し、高い剛性、耐久性、精度を維持しつつも、大幅なコンパクト化に成功した。メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤルに指が届きやすい独自構造を徹底的に追求し、これまでにない高い操作性を実現。水中でのあらゆる撮影条件下で最高のパフォーマンスを発揮してくれるハウジングだ。

価格……¥283,500(税込み)
材質……ボディ/耐腐蝕アルミ合金(削り出し) グリップ/耐腐蝕アルミダイキャスト
耐圧水深……60m
本体サイズ……幅336×高さ170×奥行139mm
重量……約2,400g(ハウジングのみ)